

## 当院産科で検診を受けている方、出産された方へ

妊婦さんや赤ちゃんの新型コロナウイルス感染症に関する情報は、現時点では非常に限られています。ご家族と一緒に以下のことにお気をつけてお過ごしください。今後の状況に応じて内容は変更されることがあります。

### 妊娠中に新型コロナウイルスに感染したら、どうなるの？

・現時点で、妊婦さんの新型コロナウイルス感染者で重症化して死亡したという報告はありません。武漢で妊娠後期に新型コロナウイルスに罹患した妊婦9名の経過が報告されました。妊娠していない患者と比較して、重症化することはなく、子宮内感染はなかったと報告されています。

・妊娠初期・中期に高率に流産や胎児奇形を来す可能性も少ないと考えられます。  
・しかし、一般的に妊婦さんの肺炎は重症化しやすく、胎児に影響する恐れもあります。また、新型コロナウイルス肺炎にかかった妊婦さんから出生した10名の新生児が報告されました。この報告によると、妊娠中に、母から胎児にコロナウイルス感染は起きていないとのことです。しかし、早産や胎児呼吸不全、新生児の呼吸障害などの症状があり、因果関係は不明ですが1例の新生児で死亡があったと報告されています。これらのことから、妊婦さんは感染しないようにするのが最も重要です。

### 感染を予防するためにできることは？

- ・人ごみや閉鎖空間での集まりなど、不要な外出は控えてください。
- ・手洗いやアルコール消毒を徹底してください。  
特に、外出後、食事の前、鼻や口に手を触れる前、トイレの後、公共のものに触れた後などは手洗いやアルコール消毒をしましょう。
- ・ご家族に患者さんや疑いのある方がいる場合
  - \*可能な限り部屋を分けて過ごすなど接触を避けてください。
  - \*こまめな手洗い、アルコール消毒を行い、タオルや食器の共用は避けてください。トイレや洗面所、浴室のドアノブなど、共有する部分の消毒を心がけてください。
  - \*感染した方のお世話は可能な限り別の人がすることが望ましいです。

\*感染者の症状が軽快してから14日間は、ご自身の感染の可能性もありますので、健康状態に注意をしてください。妊娠経過が順調な場合は、妊婦健診を1-2週ずらすことは可能です。主治医に電話でご相談ください。ただし、不正出血やお腹の痛み、破水感など産科的症状のある場合は受診が必要です。主治医に電話で相談した上で、帰国者・接触者相談センターにご相談ください。

## 感染症かな？と思ったら

・妊婦さんはリスクを考慮して、37.5度以上の発熱や倦怠感が2日以上続く、強いだるさや息苦しさがある場合は、帰国者・接触者相談センターへ相談し、指示された医療機関を受診してください。

・上記の症状に当てはまらない場合は、まずは自宅安静を心がけてください。主治医に電話で相談し妊婦検診を1-2週ずらす事も検討してください。ただし、不正出血やお腹の痛み、破水感など産科的症状のある場合は受診が必要です。主治医に電話相談の上、帰国者・接触者相談センターにご相談ください。

・妊娠後期（分娩前）に新型コロナウイルスに感染した患者さんは、指定医療機関で分娩となります。陣痛室、分娩室や出産後の回復室は全てトイレ付きの個室となります。出産後の赤ちゃんへの飛沫・接触感染を防ぐため、別室で過ごすことがあります。赤ちゃんは感染の症状がないか慎重な経過観察が必要になります。状態によっては、NICUなどより厳重な管理ができる場所へ移ることもあります。

## 生まれたばかりの赤ちゃんへの感染を防ぐために

現時点では、赤ちゃんが新型コロナウイルス感染症により重症になるかどうかは不明ですが、情報が少なく注意が必要です。

- ・生後間もない赤ちゃんがいる場合は、なるべく外出は控えましょう。
- ・ご家族は手洗いをこまめにしましょう。
- ・ご家族に患者さんや疑いのある方がいる場合

\*赤ちゃんへのウィルスの飛沫・接触感染を防ぐため、赤ちゃんを別室とし、接触を避けてください。

\*赤ちゃんのお世話をする方は、患者さんのお世話をする方と分けたほうが良いです。

\*ご家族の方全員がマスクをするようにしましょう。

\*赤ちゃんに触る前には手洗い、アルコール消毒をするようにしましょう。

\*赤ちゃんに以下の症状が見られる場合は、当院に電話で相談の上、帰国者・接触者相談センターへご相談ください。

発熱、呼吸や脈が速い、母乳やミルクの飲みが悪い、嘔吐する、  
普段より元気がない、顔色が悪い、など

## 授乳について

中国からの報告では新型コロナウイルスに感染した女性 6 名の母乳でウィルスの検出はなかったとされていますが、母乳に関する情報は少なく、母乳から感染するかどうかは現時点では不明です。

お母さんに感染症の症状がある場合は、接触や飛沫により赤ちゃんに感染するリスクがあるので、直接授乳は避けることが望ましいです。日本小児科学会では、お母さんが解熱し状態が安定していれば、十分な手洗い等を行なった上で、搾乳を与えることは可能としています。まずは、産科・小児科の医師にご相談ください。

### <参考文献>

1. 厚生労働省：新型コロナウイルスに関する Q&A
2. 公益社団法人 日本小児科学会「新型コロナウイルス感染症に関する Q&A」
3. 公益社団法人 日本産婦人科学会「新型コロナウイルス感染症への対応について」
4. 一般社団法人 日本環境感染学会 「新型コロナウイルス感染症への対応について」
5. Chen H, et al. Clinical characteristics and intrauterine vertical transmission potential of COVID-19 infection in nine pregnant women: a retrospective review of medical records. Lancet. 2020 [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(20\)30360-3](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)30360-3)
6. Zhu H, et al. Clinical analysis of 10 neonates born to mothers with 2019-nCoV pneumonia. Annals of Translational Medicine. 2020